



小泉晨一氏が逝去されました

牛乳パック再利用運動の開始当時より、言葉では言い尽くせないほど大変お世話になったリサイクルプロデューサー、元衆議院議員の小泉晨一先生の訃報が今年になって入りました。

1987年大月市で開催した「第1回牛乳パックの再利用を考える全国大会」に参加され、小泉先生の放つオーラと口跡の明瞭さ、そして具体的な発言内容に、その場にいた誰もが魅了されたことを覚えています。

以来毎年開催となった全国大会には、コーディネーター、助言者、企画者、資金協力者としてかかわっていただきましたし、経済基盤の弱いパック連の評議員としても支援下さり、加えて知恵も、ブレーンもご紹介いただきました。リサイクルプロデューサーでありながら、環境、福祉、経済、社会システム、文化とあらゆるジャンルを多角的な視野から深掘して語る方で、しかも懐の大きさ、慈愛あふれる人間性に、小泉先生と知り合った方は一気にファンにとり、必ず講演を依頼するほどでした。

お忙しい中でも、前代表の病床を見舞って下さり励ましてくださったことは忘れも致しません。

パック連の10周年、20周年の記念誌にご寄稿くださり、30周年のご案内をお送りした際「腎臓移植の手術をして出席できない」と電話でのお話し以来お会いすることもできず、このような訃報に接して残念でなりませんし、悲しみに暮れております。

今はただ在りし日の小泉先生のお姿を偲び、心からご冥福をお祈りするばかりです。

小泉先生本当にお世話になりました。
ありがとうございました。

小泉晨一さんお別れの会のご案内

元衆議院議員・リサイクルプロデューサー・医療法人徳洲会顧問の小泉晨一さんが去る令和6年12月18日、慢性心不全のため御逝去されました。葬儀は近親者のみで執り行われましたが、故人が生前お世話になった方々にお越しいただき、下記のとおり、お別れの会を開催する運びとなりました。

つきましては、御多忙のところ大変恐縮に存じますが、御臨席賜りますよう御案内申し上げます。

記

- 1 日時 令和7年2月9日(日)午後4時開式
- 2 受付 午後3時30分から
- 3 会場 秦野商工会議所1階多目的ホール
秦野市平沢2550-1
電話0463-81-1355
- 4 供花 供花については御辞退申し上げます。
- 5 服装 故人の遺志を継ぎ、礼服、黒ネクタイではなく、
平服にて御臨席賜りますようお願い申し上げます。
- 6 献花 お焼香ではなく、献花にてお別れをしていただきます。
- 7 連絡先 発起人 小泉達雄 090-8302-7682
施主 小泉孝徳 090-1434-1470



第6回北九州全国大会交流会にて
左から、小泉晨一さん、行岡グリーンコープ専務理事(当時)、平井前代表
(第6回北九州大会が前代表の参加する最後の大会となりました)

キーワードは「牛乳パック」

リサイクルプロデューサー 衆議院議員 小泉 農 一

あれから十年……

いろいろな事がありました。

第一回の大月大会に参加をし、以来10年の月日を重ね今日に成りました。

春が好き！

夏が好き！

秋が好き！

冬が好き！

いつも好き！

そんな事があたりまえに言える仲間をもちました。

みんな地域で楽しく、時を重ねてきました。

そして窮屈でない地域づくりに参加をしてきました。

キーワードは「牛乳パック」

同時多発に野を越え、山を越えいつしか北の北海道から、

南の熊本まで、そして時に海を越え……

時代をそれぞれに生活してきました。

そして……

ひとり ひとり また ひとり

ひとつ ひとつ また ひとつ

つづけし うんどう おわりなく

めざす しゃかいを いまここに

私は「夢約束」という言葉が好きだ

夢は、約束されていなければいけない

「いつかは実現するだろう」では夢ではない

夢が失望に終わることの繰り返し

人々の心にあきらめやシラケを蔓延させる

日本は大きな曲がり角にさしかかっている

世界もそうだ

しかし

政治家でも経営者でも

あるいは教育や福祉の関係者でも

多くのリーダーといわれる立場の人たちのあいだに

そつのないメンテナンスの手法で切り抜けようという考えがはびこっている

いまはニュー・ビルドの時代だというのに

さあ、種を蒔こう

新しい十年の種を……

市民は感じている

仲間は、多くの仲間はわかっている

環境ショックを前に

北に何を求め

南に何が出来るかを……

今後とも

気づかう心

気くばる心

気じめる心

気あいの心

を噛み締めて活動をつづけましょう。

キーワードは「牛乳パック」

あれから 20 年

リサイクルプロデューサー 小泉 晨一



春

牛乳をひと口飲んだ
おいしかった
そして 牛乳パックを 一枚にひらいた
春の小さな花ピラを 押花にした

夏

牛乳をゴクゴク飲んだ
のどがなった
そして牛乳パックを 風にあてた
夏の光に サクサクゆれた
きれいだった

秋

牛乳を少し厚いコップに入れて 飲んでみた
あたたかさがつたわった
そして牛乳パックのラミネートを ていねいにはがした
少し指先が つめたかった
秋の紅い色の葉を ひろいあつめた

冬

牛乳をあたたためて いっぱい飲んだ
だって冬だから
そして牛乳パックで 初めてハガキを漉いた
春の押花を いれてみた
秋の葉も漉き込んだ
じょうずに出来た

あれから 20 年

夢のようだった
でも夢ではない
心の中に この目の中に いっぱいの思い出が
刻まれ やきついている
そして 春へのたよりを書いた

それぞれの 20 年

たくさんの仲間ができた たくさんの笑い声がうまれた
私はいつか 風になる なぜか それは春の風
私はいつか 花になる なぜか それは風媒花
気づくと
私にも春のたよりが 届いた
手漉きハガキとともに